

情報連絡員報告総括表（令和2年10月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況								
		増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化						
製 造 業	食 料 品		2	2	1	3		1	3			4				4		1	3		2	2		4				4						
	織 維 工 業	1		2	1	1	1		3			3		1	1	1	1	1	1	1		2		2	1			3						
	木 材 ・ 木 製 品			1		1			1				1			1		1				1		1				1						
	紙 ・ 紙 加 工 品			2		1	1		1	1		1	1			2	1	1				2		2			1	1						
	印 刷			1		1			1				1			1			1			1		1				1						
	化 学 ・ ゴ ム																																	
	窯 業 ・ 土 石 製 品	1		2	1	2			3			2	1		2	1		3			2	1		3			1	2						
	鉄 鋼 ・ 金 属			1			1		1			1				1			1			1		1				1						
	一 般 機 器		1	2	1	2			3			3		1		2		2	1	1	1	1		2	1		1	2						
	電 気 機 器			1		1				1		1				1			1			1		1				1						
	輸 送 機 器			1			1		1			1				1			1			1			1			1						
	そ の 他																																	
小 計		2	3	15	4	12	4	1	17	2		16	4	2	3	15	2	9	9	2	5	13		17	3		3	17						
非 製 造 業	卸 売 業		1	1		2			2			2			1	1		2		X				2			1	1						
	小 売 業	2	3	1	1	5			6			5	1		5	1		4	2					6			3	3						
	商 店 街			1			1		1				1			1			1								1				1			
	サ ー ビ ス 業	1	3	1	X			1	4			5		1	3	1		3	2								4	1		4	1			
	建 設 業	1	3						4		1	3			1	3			4											4		1	3	
	運 輸 業		1						1			1			1			1						1						1			1	
	そ の 他			1									1		1				1						1					1				1
小 計		4	11	5	1	7	1	1	18	1	1	17	2	2	13	5		15	5				18	2		1	12	7						
合 計		6	14	20	5	19	5	2	35	3	1	33	6	4	16	20	2	24	14	2	5	13		35	5	1	15	24						

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和元年10月～令和2年10月)

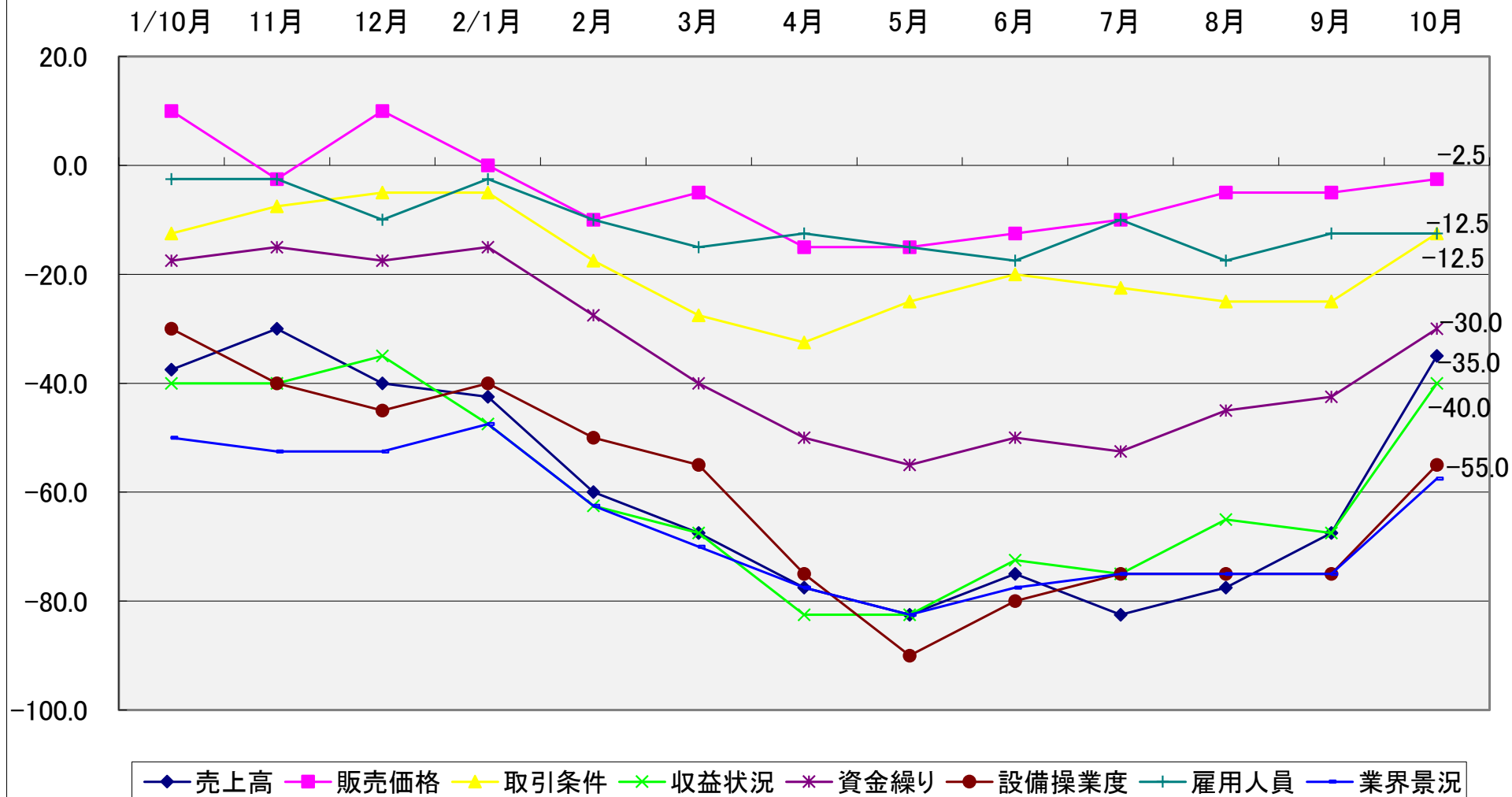
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	1/10月	11月	12月	2/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	増減
売上高	-37.5	-30.0	-40.0	-42.5	-60.0	-67.5	-77.5	-82.5	-75.0	-82.5	-77.5	-67.5	-35.0	32.5
販売価格	10.0	-2.5	10.0	0.0	-10.0	-5.0	-15.0	-15.0	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	-2.5	2.5
取引条件	-12.5	-7.5	-5.0	-5.0	-17.5	-27.5	-32.5	-25.0	-20.0	-22.5	-25.0	-25.0	-12.5	12.5
収益状況	-40.0	-40.0	-35.0	-47.5	-62.5	-67.5	-82.5	-82.5	-72.5	-75.0	-65.0	-67.5	-40.0	27.5
資金繰り	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-27.5	-40.0	-50.0	-55.0	-50.0	-52.5	-45.0	-42.5	-30.0	12.5
設備操業度	-30.0	-40.0	-45.0	-40.0	-50.0	-55.0	-75.0	-90.0	-80.0	-75.0	-75.0	-75.0	-55.0	20.0
雇用人員	-2.5	-2.5	-10.0	-2.5	-10.0	-15.0	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-12.5	-12.5	0.0
業界景況	-50.0	-52.5	-52.5	-47.5	-62.5	-70.0	-77.5	-82.5	-77.5	-75.0	-75.0	-75.0	-57.5	17.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油味噌	業務用商品の動きが悪く、仕掛在庫が多いため、原材料の供給も滞っている。しょうゆ、みそは醸造品のため、原料の仕込みから製品になるまで半年以上かかるので、原料供給の組合業務としては、時期にズレが生じている。回復までしばらく低迷する。
	豆腐	少しずつではあるが、外食産業への食材としての、豆腐油揚げの納品は回復しつつあるが、この先コロナの第三波による影響が心配される。
	製麺	まだまだコロナ禍の中では、厳しい状況であるが、しっかりと受け止め、取り組んでいく。11月によやく会議を行う。試食会は来年の2月頃を予定している。
繊維工業	組紐	少し動きが出たように感じるが、先行きに不安は残る。
	衣料縫製	マスク製造が寄与して売上は前年比ではプラスになっているが、本業であるアパレルは依然として苦戦している。本業のみなら前年比70~80%位である。
木材・木製品	木材	依然として新型コロナウイルスの影響により需要の減少が続いており、先が見通せない状況にある。
紙・紙加工品	紙器段ボール	得意先構成あるいは地域景気動向により、各社まだら模様である。例年なら、これから年末に向けて多少は荷動きが良くなると思われる。
	古紙	10月の取扱い重量は、組合員の御取引先様によって開きがある様であるが：段ボール・約96±10%位、新聞、チラシ・約90±8%位、雑誌、雑紙、その他・合わせて約95±8%位と思う。製紙会社様の国内の原紙出荷は軒並みマイナスの様であるが、アジア向け原紙の輸出がありフル生産の会社もある様である。秋需は少し有る様であるが、輸入品も多く、しかも紙が使われていないものも多くみられる。少子高齢化と情報化端末により紙離れが進んでいたが菅政権の発足に伴うIT・DX化の具体案により更に早まった感じである。官庁等の押印廃止は、印鑑製造事業者にも多大な影響があると思う。御陰様で資金繰りは楽に出来るし、GO TOトラベルや地域振興券・GO TOイート等による景気刺激策には効果がありますが、返済していくのに今までの以上の努力が必要である。三重県の持去り基地が一つなくなり集荷量が少し改善したが古紙の持去りや古着泥棒、ゴミの不法投棄もなくなりつつある。
印刷	印刷	三重県民手帳が発売になり、新聞、テレビ、ラジオや地域の情報誌等の広報活動を行った。コロナ禍の影響は引き続き厳しい業況である。オンライン会議等でデジタル化（ペーパーレス）された物件は次年度も発注が見込めない可能性が懸念される。
窯業・土石製品	伊賀焼	徐々にであるが、来館者数、各窯元の売上ともに回復傾向にあるが、まだまだ先行きが見通せない状況が続くと思われる。陶芸体験については、県内移動の効果もあり、小学生、中学生の団体が特に多い。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の10月の生産高は9月同様であり、自動車関連は若干の上向き傾向にあった。また、それ以外の建築関連、ガス関連共若干の伸びがみられた。それに反して、半導体関連は9月よりも落ち込み、稼働時間も短縮といった状況で、今年いっぱいはこの状況が続くそうである。
一般機器	四日市	コロナ感染症が終息しないまま、経済活動との共存を図る現在、わずかながら回復の兆しが見られるようになってきた。
	津市	コロナ前に比べると売上は90%以上は回復している。しかし6~8月がかなり落ち込んでいたので、その時のマイナスを埋めるにはまだまだ時間はかかると思う。ただ、急な受注の回復は材料発注に支障が出る恐れがある。取引先も含め、11月の休業がなくなってきた事は良い事である。
	伊勢	自動車部品の販売や輸出が回復してきた。先の見通しも少し良くなってきた感じがする。やはり、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の解除で、経済活動の再開が悪化に歯止めをかけたと思われる。
電気機器	鳥羽	新型コロナウイルスの影響が大きくなり、受発注が非常に悪い状態（30~40%ダウン）が続いている。先の見通しが出ない状況である。
輸送機器	鈴鹿	この半年間ずっと流動していなかった部品の受注がいくつかあり、徐々に需要の回復が感じられる。従業員の自然減や派遣社員の調整でコロナ禍での需要の少ない時期をしのいでいたので、人員補充の採用活動を再開した。
	青果	野菜前半：野菜は全体的に例年より価格は高い。特に夏場の高温の影響でトマト、ミニトマトは高い。きゅうりも高値である。玉ねぎ、キャベツは入荷が増え値下がりしている。長野産白菜もお買い得である。また地場産のほうれん草の入荷も増え値下がりしてきた。野菜後半：長野、群馬、愛知、茨城等、各地からの入荷でキャベツが値下がりしている。北海道産のかぼちゃは入荷が増え一年で一番美味しい時期である。キノコ類、大根、白菜がこの寒さで若干値上がりしている。果物前半：和歌山、奈良産の刀根柿がピークであり、甘みが十分ありお買い得である。人気のシャインマスカットも最終盤に入りお値打ちである。県内産極むせみかんが美味しい。果物後半：りんご、多彩な品種が出る時期である。人気のシナノゴールド、甘味の強い秋映、爽やかな味とシャキシャキ感が良いトキ等、今年は豊作で価格も下がり気味である。柿は県内産の次郎柿が入荷しているが、例年より少なめである。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非製造業	小売業	自転車	そろそろ当業界は静かな季節に突入する。それ故にコロナ禍の影響に対して鈍感な気分になっているようである。前年同期に比べれば若干届かないのが実情である。「自転車は車両です。原則車道を走りましょう。」と宣伝されるようになって久しい昨今、私の友人が自転車で車道左端を走っていたところ、後方から来た自動車にはねられ重傷を負ってしまった。我が国の自動車社会には車道における自転車通行帯の意識がまだ定着されていない。このコロナ禍が終息した暁には、自転車の安全確保がニューノーマルとなる事を願っている。それは自転車業界の安定にもつながるだろう。
		電器	10月は、前年に対し2桁のアップが出来た。ただ前年消費税のアップの買い控えがあり単純に比較は出来ない。長引くコロナの中、個店でのコロナ感染拡大に対する手指の消毒・ソーシャルディスタンスを保つ距離での説明、マスクの着用等しながら販促を行い結果が出せた事で販売を牽引したが、新型コロナの感染拡大の影響は大きく、4月からの累計では2桁に近い大幅ダウンである。在庫面でも季節の変わり目と併せ商品の切り替えが始まり品薄・品切れが顕著になってきた。また、コロナ関連の空気清浄機等は生産が受注に追いつかず継続して品薄が続いている。残念ながらこのような状況の中、高齢化のため廃業店も続いている。
		石油	Go Toトラベルキャンペーンがはじまり、賢島辺りの高級ホテルは連日満室の話も聞いている。また、この10月1日からは地域共通クーポンも加わり賑わいを見せる中、SSにおいても共通クーポンがガソリンの給油に利用され売上に貢献している話を聞く。ありがたいことである。10月の末から冷え込みが始まり、暖房用の灯油の売上が期待される時期となってきた。我々の業界においては、灯油の売上を伸ばすため、寒冬を期待するところである。
		スポーツ	秋らしい日が続いた10月だった。コロナ禍の下で学校行事も少しずつ以前の状況に戻りつつあり、部活動も活発に動いてきたようである。当組合員のビジネス相手は学校が多いので受注活動もそれなりに活発になってきたようである。このままヨーロッパのような現象が起こらない事を祈るばかりである。
サービス業	商店街	熊野市	Go Toトラベルが本格的にスタートし、商店街内でも若干数の店舗がクーポンに加盟しクーポンでお買物に来られる宿泊客が見られ始めた。ただ飲食関係の店舗によっては、外来者の利用は今のところ加盟する予定はなく、市内周辺のお客様のみを対象にしばらく営業を続けるとの事。また市内では感染者が出ていない状況のため、感染を恐れている店舗も多く存在しているのが実情のようだ。また今年の3月から開催を控えていた朝市イベントが7か月ぶりにようやく開催された。今回は「青空テイクアウトフェア」を題し、市内のお弁当を取り扱っている飲食店を中心に開催した。感染予防にも気を配り、スタート前のスタッフ、出店業者の検温や各ブースでの飛沫予防シートや消毒液の設置、出店ブースの間隔をあけるなどの対策を行った。お客様からは好評で、ほとんどのブースでは売り切れとなり、出店業者からも好評を得た。今後も継続して開催をしていく予定である。
	旅館	コロナ禍のない通常の年は、秋のシーズンが年間を通じて最も賑わっていたが、「Go Toトラベル」効果により10月は昨年の売上に近い実績を上げることができた。しかし、効果は高料金の宿(少数施設)であるため、満館の場合が多く、また修学旅行は大型旅館ホテルでないと受けられないため等、効果はある程度限定的なところはあっても「Go Toトラベル」と各種優待券等の効果は業界にとって起死回生の策であったと感謝している。	
建設業	測量	仕事柄、コロナウイルス感染の可能性は少なく、作業に影響はない。公共事業の受注は各社例年並みである。持続化給付金により各社少し元気をもらっている。	
	警備	工事等の交通誘導警備は例年どおり順調な受注であったが、コロナのためイベントが全て中止、減少となり、その分減益となった。	
建設業	内装工事業	10月は対前年同月比で比較すると大幅な増加となった。コロナウイルスの影響で7月以降はマイナス傾向で、10月も悪い流れになると思われたが、なんとか持ち直した。ただし、今後どのような状況になるかは予測できない。	
	水道工事業 (亀山)	特になし。	
運輸業	トラック	燃料価格は9月に引き続き横ばいで推移した。国内景気は依然として厳しい状況にあるものの自動車関連を中心に持ち直しの動きが見られ、個人消費も回復基調にあるため、運輸業においても自動車関連中心に取扱貨物量の増加が見られる。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	また新しい取り組み等を教えてほしい。
一般機器	四日市	新政府に望む事は、給付金の再交付を実行してもらいたい。
サービス業	測量	組合員の緩やかな成長を望んでいる。
	旅館	「Go Toトラベル」効果により、期間中の予約(1月末迄)は非常に好調であるが、2月以降の予約は極端に悪く、見通しが立たない状況である。限られた予算の中で、割引率を下げてでも延長してほしい。